

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291100016		
法人名	株式会社ケアサービス・久		
事業所名	グループホーム夕陽の丘		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町岡郷1669番地1		
自己評価作成日	平成22年1月7日	評価結果市町村受理日	平成22年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者が常に中心にあり、ゆっくりゆったりのおびりと自由に生活できるようにサポートしている。 ・ 食事を手作りにこだわり、一日20種品目の食材を使用することを心掛けている。 ・ 利用者が一人にならず自然とリビングへ集まる様、毎日レクリエーションを行ったり会話や歌を唄う等工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>リビングからの景観は素晴らしく季節感をいつでも感じ取れ、事業所の名称通り美しい夕陽を見る事ができ居心地の良い生活空間となっている。在宅緩和ケアを専門とした医療機関と密接な関係があり、様々な部分で連携が期待できる。利用者の家族等の訪問回数は多く、家族会での交流も含め職員が信頼関係を築く事に努めている。利用者の事業所等での日常生活場面を収録したDVDを家族に贈って見てもらう試みはその1つの媒体と言える。外部研修については可能な限り積極的に参加し、地域の連絡協議会等の中では勉強会や意見及び情報交換を行っている。食事には1日20種類の食材を使用し利用者の要望に応じてその日の献立を決定しおいしく、楽しく食べられるように努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている		設立当初の職員皆で作成した6つの理念を掲げ、「アットホーム(家庭的)な事業所を目指している。理念や地域との結びつきを重視した運営規程が玄関に掲示されており、誰もがいつでも確認が出来る。職員はこれらを念頭に置き現場での実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	みかん狩りを行った際のおすそ分けや、行事活動を通しての近所付き合いを行っている。	施設長が独自に地域行事に参加したり、地域の地主との関係を強め、交流が出来るようにネットワークを構築している段階である。	地域の人からの食材の提供や事業所の七夕短冊に書いてもらったりなど、少しずつその結果が生じてきており、今後も積極的な地域への啓発、地域の関わりが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行っている。	昨今では半年に1回のペースで会議が開催されている。参加メンバーの用件は満たしており、具体的には利用者の入所状況報告を中心に行事や外部評価、火災訓練についての報告及び意見の抽出、感染症勉強会などを行っている。	会議の内容や取り組み方を再検討するとともに、2ヶ月に1回の開催を実現していく事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア連絡協議会等には参加している。また、推進会議での意見交換等も行っている。	地域のケア連絡協議会の中で市町村関係者や同業者の意見及び情報の交換、合同研修等に参加している。また、役場に対しては必要に応じて、電話での連絡をとっているが、そういった会の場を借りて要望を申し出る事もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で身体拘束委員会を設置し月に1回のケア会議の場と合わせ行っている。身体拘束に関する研修会などには参加し、施設内で活かして、拘束ゼロで取り組んでいる。	法人内で規程を作成し、身体拘束委員会を設置しており、担当者会議の中で意見交換を行っている。また、身体拘束に関する研修会には積極的に参加し受講記録の作成を行い内部で報告を行っている。玄関の施錠は、一般家庭と同じように日中は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修会やセミナーなど参加し、施設内で活かしている。		

グループホーム夕陽の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には重要事項説明書を基に十分に説明を行っている。また、事例内容を持ち出し分かりやすく説明し納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは密な関係を築き、訪問時などには気軽に話せるような関係だが、玄関にご意見箱と要望書を設置している。家族会等で出された意見や要望は即実行している。	家族会があり家族の日々の訪問も多く、職員は家族との関係作りに努めている。家族からは、運営に関する部分に至る前にまず福祉についてや当事業所の役割についての啓発を行っている。利用者支援に対する要望は随時抽出し、実現に向けて動いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議の場で意見交換等行っている。また、日常業務内での意見や提案等の話し合いを行えている。	職員が要望を伝えやすい環境にあり、担当者会議の中でも意見交換などを行い、議事録に記録されてある。運営に関するという意味では、職員の雇用形態についてパートから正社員への変更について要望があった際には、実現に向けて努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力、資格、経験を給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講等のスケジュール計画などはないが、受講機会があれば行っている。施設内でも利用者一人ひとりのケアを想定練習している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア連絡会などには参加している。また、他施設への体験見学も数回行った。他施設の利用者、スタッフとのフォーセンバレー大会等を通じ、交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には十分な聞き取り調査を行っている。(嗜好調査・生活歴調査等)これらを基に利用者へ接しかけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は必ず不安や心配を訴えてきますが、全て聞き入れ、事例を持ち出し説明を行う事で不安等を取り除いている。サービス開始前は家族の要望等を取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、調理補助や洗濯物を畳んだりとゆったりとした関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設訪問時など意見交換を行い、施設側だけの意見じゃなく、家族の要望を取り入れたうえで家族の力をお借りしたりし共に支えあう関係は築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人等の訪問時はいつでも気軽にと声掛けしている。家族へもこの旨伝えている。	利用者の友人や知人の訪問があり、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。また、自宅等への外泊の要望があれば支援を行い馴染みの場との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を見極めたうえで、利用者の要望に沿った席決めなど行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握はできているが、全て本人本位にはできていない。その中でも十分に検討し極力近づけるようには努力している。	日々の利用者との会話の中で思いや意向の把握を行っており、会話が困難な場合は、表情などでくみ取るよう努めている。また、アセスメント時に生活歴調査などを行い本人本位の生活が送れるよう職員が支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の場で意見交換を行い、家族や利用者の意見を取り入れた介護計画を行っている。	定期的に行われる担当者会議の中で本人、家族の意見や要望を踏まえ、職員で検討し介護計画の作成に繋げている。例えば歩行訓練や眠剤などの使用について意見があがっている。また、モニタリングを行い、利用者の状態に応じて随時、介護計画の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行っている。		

グループホーム夕陽の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行っている。	利用者と家族の要望を踏まえかかりつけ医の決定を行っている。また、医療機関との密な関係を築きながら、月2回の往診や通院送迎の支援を行っており、ドクターコメントも含めた往診記録を作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会の場で、家族、専門医を交えて終末期のあり方について意見交換を行った。まだターミナルケアを行った事例はないが、今後の検討課題だと思う。	この分野に関しては、家族からの要望や意見があがってきており、現在、事業所の方針を検討している段階である。	ホスピスを行っている医療機関と連携をしながら支援体制を強化するとともに、他の入居者への影響等も考えながら事業所の方針を検討される事が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	火災訓練の中にAED操作方法や心肺蘇生方の訓練を実施している。また、緊急連絡網の整備もできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災対応訓練を実施。消防関係者の助言等取り入れている。又、近隣住民には協力のお願も行っている。	災害時における対応の方法、連絡網について職員が理解している。火災に対する避難訓練は年2回(夜間想定あり)行われており、うち1回は地域の消防署の協力のもと行っており、避難経路も明確になっている。しかし、地震や水害等の災害についての対策はまだ検討がなされていない。	様々な災害を対象とした対応策を検討し、地域の協力体制を得て、訓練を実施していく事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を見極めたうえで、その人に合った言葉掛けで接している。	職員は日々、利用者と接する中で利用者の人格を尊重し支援している。また、個人情報については各職員から守秘義務の誓約書をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設にはメニューがなく、明日はなんにする？等で決めている。簡単な調理補助や食器拭きができる利用者には共に行っている。	緻密なカロリー管理は行っていないが、食事を生活していく上で重要と位置づけ、1日20種類の食材を使用するよう努め、あえて献立は決めていない。また、利用者の状態や能力に応じて食事の準備や片付けの手伝いをしてもらっている。利用者が職員と共に会話をしながら食事を楽しんでいる様子も伺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に20種類の食材を使う努力をしている。また5段階での摂取記録等で管理できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝起床後、毎食後の口腔ケアは行っている。また、2週に1度の歯科医往診で対応。歯科医の助言等活かし口腔ケアを行っている。		

グループホーム夕陽の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っている。	排泄に関しては排泄記録表でチェックし、日誌に転記する事で管理しており、その量や排泄パターンを把握し必要に応じて声かけや誘導を行い自立支援に繋げている。おむつの使用を減らす事も実現させている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜を多く取り入れたり、定期的な水分摂取を行っている。また、レクリエーション時に個々に応じた体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の定めはあるが、これに限らず入浴できるようにしている。入浴剤等も数種類準備し、変えている。	入浴は、支援が行いやすいように基本的には決められた曜日、時間帯になっているが利用者の状態や要望に応じて臨機応変に対応している。入浴剤を使用し入浴を楽しんでもらうと共に、シャワー浴や足浴等の対応も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表で管理している。処方変更があった場合は連絡帳や申し送りの際伝えている。薬剤師訪問の際、疑問点などは積極的に相談し理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や促しでドライブなど出かけている。	散歩への声かけを行い、事業所の庭や畑に出る事は日常的となっている。また、天気の良い日は庭で食事をしたり体操に促したりもしている。ドライブや遠出の際は、法人の車両を使用し車いすを利用している方も含めて外出支援を行っている。	

グループホーム夕陽の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている。	美しい景観を見る事ができ、床暖房が完備してあるリビングでゆったりとした生活を送りながら季節感も感じる事ができる空間となっている。壁際には利用者の作品を展示し写真の掲示が多く見られる。リビングでは利用者の生活の様子がわかるDVDを見たりしながら共通した思い出を振り返ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに皆が自由にくつろげる数のソファを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際は家具など新調せず、使い慣れた物を使用するよう勧めている。また居室が殺風景にならぬよう飾り付けや写真(カレンダー等)で工夫している。	使い慣れた家具の持ち込みは自由となっており、居室には時計や写真などの持ち込みがある。テレビは居室への閉じこもりを防ぐためにあえて置いていない。居室の明るさには特に気に掛け適度に保つ事に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している			